
空き缶当たって俺転生！

1億36度

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空き缶当たって俺転生！

【Nコード】

N6093Y

【作者名】

1億36度

【あらすじ】

普通の大学生だった俺は歩いていて飛んできた空き缶が刺さって死んだ。そしたら目の前にいきなりじーさんが現れて「いやーわしが投げた空き缶が刺さって死んでしまったみたいじゃの、まっ転生させてやるから許せ」とのたまったそして俺は転生することになった。

「はあ！ー！誰こいつ？」

突然ですが皆さんは、転生という物を信じるでしょうか？俺は全く信じていなかった。

しかし今日の前にいる変な爺のせい「誰が変な爺じゃ。」で信じる羽目になってしまった。

「うっさい糞爺地の文につっこみ入れんな。」

「なんじゃとガキめ！わしが転生させてやると言うてるのじゃからもっと喜ばんか！ー！」

「うるさいわ自分のミスの証拠隠滅だろうが！ー！今他の人に説明しとるから黙ってる！」

「こんな小説ですがよろしければ読んでくださいby作者」

はあー！誰こいつ？（後書き）

小説書くのが人生初なのであたたかい目で見守ってください。

転生理由プラス主人公プロフィール（前書き）

駄文ですがよろしければ読んでください。

転生理由プラス主人公プロフィール

さてみなさん俺がなぜ転生することになったのか、を説明しようではレッツ回想タイム！
これは朝の出来事だった俺は何時もどつりの朝を迎えるはずだった

「さて、めんどくさいけど今日も学校に行くか。」

そして起きて服を着て誰もいない部屋に向かって「行ってきまーす。」と言って外に出た瞬間だった ヒュゴオオオオそんな音がしたと思ったらコカオーラの缶が空気摩擦で燃えながら降ってきたのだ！！そして一介の学生の俺がそんなものよけられるはずもなく直撃して木っ端みじんに吹き飛んだとさ チャンチャンそして俺の遺言が「何故コカオーラの缶？」だったからね。

そして次起きる

と目の前にじーさんがいて「いやーわしの投げた空き缶が刺さって死んでしまったようじゃの、まっ転生させてやるからゆるせ」といったのだ。

「はあ！？」「いやじゃから」「いやその話は分かったが、まずなぜ空き缶を投げたのか説明してもらおうか。」

なんじゃこいつは投げた理由などどうでもいいじやろつに変わったやつじゃのう、まっ話してももんだいないじゃろ。「じつはの徹夜あけだったんじゃよそれでな身体がだるくての目を覚ます為に飲んだコカローラの缶をポイ捨てしたのじゃよ。」「待てそれじゃ俺はお前のマナー違反で死んだのか？」「おお、察しが良いな、でなこのままにしとくとわしの欠点になるからの転生してくれ」
Sideアウト

この神は自分のミスをかくすために転生しろと？

これは最低でも願いくら

いは答えてもらわねばな。

「それでチート能力はもらえるのか？」

「おおやるやるいく

らでもやるぞ」

「よしじゃあ遠慮なくいわせてもらうぞ。

まず、ロギア

系の悪魔の実の能力をくれもちろん弱点は無くしてな。

それとおれにはありとあらゆる概念、呪い、異能をきかないようにしてくれ。あと不老にしてくれ、あとパ

ートナーをくれ。」

「なんじゃその程度かふむ、サービスとしてピカピカの実の力を強くしてやろう。具体的には黄猿のよ

うに光を媒介にせんでも光速で行動できるようにしてやるわい。」

「よろし

くたのむ。」

さ」

て、パートナーの件じゃなついてきなさい」

「ああ」

「さて、この召喚陣の前で血を垂らすとよい

お主に一番合った

ものがよびだされるはずじゃ。」

「わかった」

そして俺はゆびを噛み切り血を出す。そしてたらいきなり召喚陣が強烈にひかってまぶしくて目を閉じた目を開けると目の前にはツンツンヘアアの紺色のチャイナ服？を着た美女が膝まずいていた。

「はじめまして、我が主よ我はあなたの剣となりましょう。」

「ほお、無名の英霊を

呼び出すとはのおどろいたわい。」

「無名の英霊？アーチャーみたいなのか？」

「うむ、そん

なものじゃな、詳しい話は送ってからしようかの」

「いや、今しろよ！」「わしも忙しなので
逝ってこい。」

していきなりバットを取り出すと「たっしやでの」「カキーンいい音をたてて振りきった
もちろん俺に向かって「殺す気か」「そして俺の意識はブラックアウトしていった。

主人公設定

真名 鬼灯 真 年齢 20

家族は幼いころに他界して覚えていない。一人で生きる為にバイト「解体業」をしていた、なので血などにはなれている。見た目はメルヘブンのイアン服装はスーツ「黒」

筋力 B+

耐久 C+

敏捷 EX

魔力 -

幸運 D

宝具 - -

スキル

不老 A

老いる事はないが成長はする。

自然の身体 EX

あり

とあらゆる物理攻撃を無効化する。

絶対なる神の加護 A+

異能・概念・呪いを無効化してくれという願いを神なりに考えた結果神が取った手段しかし幸運が副作用で下がる

パートナー設定

真名

リー・シンクー 年齢20

並行世界の一つで糸を使う武を極め

生前は「生ける武神」と呼ばれていた。

仕える主と幸せな日々を送れるようにと思っている。

見た目はメルヘブンのアイ

リン右目に一条の縦傷が入っている。ちなみに上から90・56・

80 服装はスリットが浅いチャイナドレスへ本人いわく藍

色

筋力 A+++

耐久 A++

敏捷 A+++

魔力 ー

幸運 B

宝

具 EX

宝具

アリアドネーの糸玉

EX

彼女の出身の世界の神の道具 見た目は空色の水晶

玉二つ 能力は糸を無限に出せる・出した自由に操れる・出した糸は切れないだけの能力

ル

スキ

糸の身体 A+++

アリアドネーの糸玉から出た糸で身体と服を形成しているためアリアドネーの糸玉が二つ壊されなければ死なない。なお神の糸で構成された身体なので老いと死の概念が無い。

気配遮断 A+++

戦闘態勢になって

も熟練の戦士でも気配を読むことに集中しなければ判らない。

つてる間に鬼が沢山出てきやがった、えーと1・2・3・4・5つわ！ぱつと見20いるじゃねえかおっさん本気出しすぎだろ。

「悪いなあんちゃんこつちも命令でな堪忍しとくれよ。」

いつも思ってたんだがこの作品の鬼って人間臭いよな、まあ関係ないか。

「鬼さんたちよッ全力で来ねえと直ぐ死ぬぞ」さて戦闘開始だ。

鬼 Side

なんじゃ

この兄ちゃん魔力も気もほとんどないやないか、まさかこの兄ちゃん殺せ言つとんのやるか？ほな、さきに謝つとかんとな「悪いなあんちゃんこつちも命令でな堪忍しとくれよ。」まあ許してはくれんじやろうが、「鬼さんたちよッ全力で来ねえと直ぐ死ぬぞ」驚いたまさか挑発してくるとは己の腕に自信があるのじやろうか？あるんじやろうならこつちも遠慮せいへんでさあ、殺しあいの始まりや。

Sideアウト

さて一気に決めますかね、ヤミヤミの能力発動

「地面にの

まれる、黒床！！」

おお鬼たちが吞まれてく「あんちゃんなんやこの技は！」

「教えられねえけど、おれも原理知らんし」吞まれ終わったところには送還されとるから安心していい」「ヒュッ」ザクどうやら鬼の一人が最後の抵抗で射つたみたいだ

「ああ矢が刺さったのか、ま問題ないけどな」ズポッ 俺は矢を

抜き捨てる。

「化け物やないか」

「なんや、あんちゃんの方が気にすんな俺がおかしいんだ」

「ほうかい、また今度会う時はせめて触れて見せるからの」

「ああ、じゃあな」俺は手を振る。 「さて全員呑まれたな、

あつやべおつさんごと飲んじまった説明どうするかな」

「ちよつといいかな。」突然声を聞いて振りかえると紳士がたっていた。

タカミチSide

僕が夜の警備をしていたすると「タカミチ君か裏山に侵入者が現れたから排除に入ってくれ」と学園長の念話が届いた「はい、わかりました」僕は直ぐに返事を返して移動する。

約10分で裏山につくと異様なものを見た鬼とその召喚者であろうものが夜でもわかるほどの黒い物に呑まれているのだ、驚いたが今近づくのは危険だと判断して離れて観察する事にした。そして良く目をこら

して見ると一人だけ立っているのだ、おそらくあの人がこの黒い物の術者だろう、そう仮定して見ていると鬼が射った矢があの人胸に刺さったのである、でもあの人は何んでもないように矢を抜くと投げ捨てたそして全ての鬼と術者が沈んだのを確認してあの人に声をかけてみることにした「ちよつといいかな。」さあ、どう出る。

Sideアウト

さて目の前の紳士をどう

しよう。

1 殺す

2 殴る

3 話す

おいおいなんでこんなに選
択肢のがバイオレンスなんだよ！当然1・2は却下だよな！まあ3
しか残ってないしこれ選ぶか。

「あの「もしよけれ
ば学園長室と一緒に来てくれないかい？」ぜひとも！！」

「・・・ああ、ありがとう」

あれ、なんで

引いてんだ？

おそらく侵入者を排除しに来たであろう、

タカミチさん

しか

し、侵入者が排除されていた！とりあえず排除した人物を学園長の
ところに連れていこうとすると
相手が滅茶苦茶乗ってきた 今ここ

ああ、こりゃ引くわ、まあ

いいやとりあえずついてこよう、

そして時が飛んで

学園長室

「はじめま

して、わしが近衛近右衛門じゃ君が侵入者を排除した人「すげえマ

ジで後頭部長え本当に妖怪みたいだな。」「いや、わし人間じゃから。」「ああ、わかつてるって」ってあれ、近衛さんがないてる。「はじめてじゃ、こんなに早く信じてくれるとは」

うわぁ、つらいなあ

30分後………

「さて、唐突じゃがお
主ここではたらいてみらんかの」「学園長なにをかながえて」

おお、タカミチ先生がもう抗議しとる

「でどうかの？」

抗議無視かよ！まあ回答は決まってるんだがな。

「喜んで！」「おお、そうか、で名前はなん
「鬼灯 真だ」というのかのう？」

「ふむ、では真君よ給料は出すから警備員と女子寮の管理人をして
「おお、こちらこそ」「では、また明日の深夜ここに来てくれ」
「ああ、
わかったじゃあな！」

よっしゃっ衣食住ゲット！そう、思いながら俺は学園長室を出ていく。

近衛Side

「学園長なんでいきなり採用したんですか？」

高畑先生がき

いてくる、しゃあないのう理由を話すかの。

「ああそれはの、長年の勤じゃよ。」

「勤で

すか？」「うむ、なにかこうな、この者を仲間にしるとな勤がいつ

てのう」「
かるじゃろうし」

「まあ、明日どれくらい強いのかわ

温厚そうな顔しとったし仕事2〜3こ増やしても給料上げるとい
えばうなずいてくれるじゃろ
わかるじゃろ。

まあ、なんにしる明日全部

S i d e ア

ウト

その

頃真は「あれ俺住むところないんじゃね？しゃあない野宿しとくか」
と
滅茶苦茶順応していた。

さて、問題だこの世界だこの？（後書き）

勝手に技名を付けました安直ですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6093y/>

空き缶当たって俺転生！

2011年11月20日18時08分発行